2024 年 2 月 29 日(木)合同報告会

「住谷悦治日記関係資料――調査・収集活動について――」

第 1 部門研究　関口寛（人文科学研究所）

第 1 部門研究（「住谷悦治日記の総合的研究」）では、6 つの班が元同志社総長で戦前から戦後にかけて活躍した経済学者、住谷悦治（1895–1987）の日記を用いて、その翻刻やこれにもとづく共同研究を行っている。ここでは、2023 年度に行った班合同による研究活動及び第 1 部門研究の一環として人文研がとり組んだ資料収集活動の概要について報告する。

当該部門では、2023 年度は 12 月現在、合計 40 回の研究会を開催した。また今年度は、第 1 班が他班に呼びかける形で、上武大学教授の田中秀臣氏（『沈黙と抵抗　評伝：住谷悦治』著者）を招聘し、合同研究会を開催した（7 月 22 日）。田中氏からは「住谷悦治の評伝を書いた後――今後の課題と未整理資料の検討――」と題した、田中氏らが松山で 1999 年に開催した住谷悦治研究会の活動やこれまでの資料調査をつうじて判明した知見などの報告をいただいた。

これまでに人文科学研究所では「住谷悦治日記」の主要な期間である 41 年間分（1914～1955 年）のうち 25 年分を調査・整理してきた。今年度は関口ら人文研研究員が悦治の長男で M・ウェーバー研究等で知られる故・住谷一彦氏の蔵書を整理し、新たに 14 年分の日記を発見することができた。これにより当該期間のうち 1945 年、1950 年、1954 年の 3 年を除く 38 年分の日記を確認できたこととなる。

新出資料には、悦治が吉野作造に師事し YMCA 寮で生活した東京帝大学生時代のものや、同志社大学法学部に就職した後、軍に招集され兵役に就き宇都宮で過ごした第 14 師団時代、同志社を辞職した後、文藝春秋社記者として欧州で過ごした特派員時代など、これまでの日記では知られていなかった戦前期の悦治の活動や思想の軌跡をたどることができる貴重なものが含まれている。

日記の調査に当たっては、元同志社大学文学部教授の故・住谷磬氏の祐子夫人にご遺族との間を仲介していただき、また先の田中氏からも有益な情報の提供を頂いた。ここに、改めて謝意を表したい。新出日記は、ご遺族のご厚意により人文科学研究所に寄贈いただくこととなり、今後その整備を進める予定である。